

第 1 章第 2 節 →1.2

第 1 章第 2 節第 3 項 →1.2.3

また、新しい章または新しい節を始める場合には、その前に空行を 1 行挿入する。

- 8) 原稿の執筆者名及び所属は空欄とし、掲載希望分類名及び原稿タイトル、要旨を記した後、直ちに本文を記すものとする。

2. 引用文献の提示方法は、原則として次の形式に従うこと。

1) 補注は、当該箇所の右肩に上付き文字で、「¹⁾」、「²⁾」のように番号で示し、本文のあとに「注」と見出しを付けて番号順にまとめて記載する。

2) 引用注は、該当する文章中に（著者の姓_刊行年:始頁-終頁）として記載する（「_」は半角スペースを、「:」は半角コロンを、「-」は半角ハイフンをそれぞれあらわす）。また、引用文献を 2 つ以上列挙する場合は、半角セミコロン (;) で区切る。

(例) (山本 1989: 56), (齋藤 1990b: 145-176)

(佐藤 1995: 23-25; 鈴木 1997: 145-156; 田中 2007: 120-124)

3) 文献が共著の場合は、「第 1 著者・第 2 著者」の順に記載し、ナカグロでつなぐ。3 名以上の場合は、「第 1 著者ほか」として「ほか」をつける。編書の場合は、「編者名編」として「編」を入れる。監修の場合は、「監修者名監修」として「監修」を入れる。英文による 3 名以上の共著の場合は、「et al.」を、一人の編書の場合は「ed.」、2 名以上の編書のときは「eds.」をつける。

(例) 「…が明らかにされている (山田・佐藤編 1990: 165-169).」

4) 翻訳書、翻訳論文の場合は、「原著者の姓_原書の刊行年=訳書の刊行年」を原則とし、頁数の記載にあたっては、訳書の頁を用いる場合は、「原著者の姓_原書の刊行年=訳書の刊行年:始頁-終頁」、原書を参照して独自に訳出した場合には、「原著者の姓_原書の刊行年:始頁-終頁」とする。

(例) 「…と論じている (Smith 1930=1996: 51-64).」

3. 引用文献の記載は、本文中に引用または言及しているものに限る。記載方法は、原則として次の形式に従うこと。

1) 引用の根拠となる文献は、補注のあとに、「引用文献」と見出しを付け、和文文献、英文文献などの区別をせず、著者姓のアルファベット順、同一著者の場合は刊行年順、同一刊行年の場合は a, b, c を刊行年に付記し、記載する（以下の例などで、和文の場合は頁表記の部分を除き括弧や句読点はすべて全角、英文の場合の「_」は半角スペースを、「.」は半角ピリオドを、「,」は半角コンマを、「:」は半角コロンを、「-」は半角ハイフンをそれぞれあらわす）。また、それぞれの文献で 2 行目以降は全角 2 文字分字下げすること。

① 図書の場合：

和書：著者姓名（刊行年）『書名』出版社名。

(例) 青葉太郎 (2012) 『初年次教育の課題』 片平出版.

洋書: 著者姓, 著者名頭文字, (刊行年), 書名, 出版社名.

(例) Field, J. (2014) *Learning Support in Higher Education*, TU Press.

(例) Jones, K. (2014) *Learning Environment in Higher Education: Service-Learning for Citizenship*, TU Press. (=2016, 宮城政宗訳『高等教育の学習環境』 仙台出版.)

② 図書の一部の場合:

和書: 著者姓名 (刊行年) 「章の見出し」 編者名 『書名』 出版社名, pp. 始頁-終頁.

(例) 伊達杜広・青葉太郎 (2003) 「大学における学習支援」 川内萩子編『大学教育とライティング教育』 仙台出版, pp. 54-68.

洋書: 著者姓, 著者名頭文字, (刊行年) “章の見出し”, 編者名頭文字, 編者姓, ed. 書名, 出版社名, pp. 始頁-終頁.

(例) Field, J. and Hill, D. (1998) “Academic Writing Education for Undergraduate Students”, M. Smith ed., *Academic Writing*, Ac Press, pp. 66-74.

③ 雑誌や紀要などに掲載された論文などの場合:

和雑誌など: 著者姓名 (刊行年) 「論文名」 『雑誌名など』 巻数号数, pp. 始頁-終頁.

(例) 江田緑 (2005) 「大学におけるライティング教育の課題」 『東北大学教育研究』 第5号, pp. 34-42.

洋雑誌など: 著者姓, 著者名頭文字, (刊行年) “論文名”, 雑誌名など, 巻数号数, pp. 始頁-終頁.

(例) Green, M. (2008) “Academic Writing in Higher Education”, *Journal of Writing Education*, Vol. 7, pp. 8-16.

2) ウェブサイト, ウェブページ, ブログの場合:

著者姓名 (刊行年) 「ウェブページの題名など」, ウェブサイトの名称など, 入手先 URL (閲覧日付).

(例) 川内萩子 (2016) 「ライティング教育におけるピア・サポートの効果と課題」 東北教育政策研究所 『東北教育政策研究レビュー』 vol. 3, pp. 120-138, <http://www.thk-univ.research.ac.jp/pdf> (閲覧 2022/5/27).

(例) 文部科学省 (2013) 「国立大学改革について」, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/htm (閲覧 2022/5/27).

3) 新聞記事の場合:

著者姓名 (刊行年) 「記事の題名」 『新聞名』 (日付, 朝刊・夕刊などの別版), 掲載頁.

(例) 宮城政宗 (2016) 「東北大学附属図書館における学習支援の取組」 『東北新聞』 (3月26日, 朝刊 宮城全県版), 26面.

(例) 東北新聞 (2017) 「大学図書館」『東北新聞』(4月6日,夕刊 地方版) ,18面.

4. 引用文献の記載が, 上記の形式によることが, 専門分野の性格上困難な場合には, 当該分野における標準的な形式によることができる. この場合, 「標準的な形式」の拠り所とした学会誌等を「投稿票」の所定欄に記載して届け出ること.
5. 謝辞を入れる場合には, 本文の後, 補注の前に入れる.
6. 入稿原稿提出後(再査読結果に基づく修正後)の大幅な修正は認めない.
7. 最終的な体裁の統一は編集事務局で行う.

* 原稿テンプレートは, 投稿予定のエントリーを行った者に送付されるとともに, 高度教養教育・学生支援機構ウェブサイトの「紀要」ページにも掲載されている.